様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月　１ 日現在

機関番号：１３３０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2022
課題番号：１８Ｋ０１０６０

研究課題名（和文）初期イスラーム時代のグラフィティを用いたアラビア半島ヒジャーズ地方の道の研究

研究課題名（英文）Early Islamic Routes in the Hijaz: A Study through Rock Graffiti

研究代表者
徳永　里砂（Tokunaga, Risa）

金沢大学・古代文明・文化資源学研究所・客員准教授

研究者番号：００４５８９３６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,500,000円

研究成果の概要（和文）：文献史料からは知ることのできないイスラーム時代最初期の旅人たちの足跡を探るため、アラビア半島ヒジャーズ地方の岩壁に残されたグラフィティ（落書きに類する碑文）の網羅的な分布調査を実施した。その結果、サウジアラビア、タブーク州南部、北部にて200点以上の初期イスラーム時代のアラビア語碑文を新たに登録するとともに、調査域内の既知のグラフィティ遺跡についても再調査を行った。これにより、遠隔地との間を結ぶ主要ルートの他、既存のルート研究ではほとんど注目されることのなかった山間の小規模のワーディー（涸谷）が近距離ネットワークの中で重要な役割を果たしていたことが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
アラビア半島ヒジャーズ地方の岩壁に残されたグラフィティの調査を行い、これまでの文献史料や既存研究では知られることのなかったイスラーム時代最初期の旅人、地元民が水供給等の目的で頻繁に利用した陸上ネットワークの一側面を解明した。また、新発見の初期イスラーム時代のアラビア語グラフィティの中には、アラビア語書法の発達史の分野でも新たな知見をもたらす発見があった。これらの資料を優先的に刊行したことにより、アラビア語研究の観点でも重要な資料を提供できたものと考えている。

研究成果の概要（英文）：　This research aimed to explore the footsteps of travelers at the earliest stage of the Islamic period, before the emergence of geographical works and travel literature by early Muslim scholars, through a comprehensive survey of the distribution of graffiti left in the desert of the Hijaz in northwest Saudi Arabia.
The surveys yielded more than 200 new early Islamic Arabic graffiti in northern and southern Tabuk province, Saudi Arabia, and some known graffiti sites within the study area were also re-examined. As a result, it became clear that not only the importance of routes used for long-distance travel but also small wadis, which had previously received less attention in route studies, played a significant role in the short-range network.

研究分野：アラビア半島の考古学・碑文学

キーワード：初期イスラーム時代　アラビア半島　ヒジャーズ　アラビア語　タブーク　碑文　グラフィティ

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

初期イスラーム時代のグラフィティ研究はサウジアラビア考古学の主要なジャンルの一つであり、これらの資料を用いた巡礼路研究は既に 1980 年代より行われてきた。2017 年 3 月、筆者はタブーク・ジャウフ考古学プロジェクト（代表：金沢大学 藤井純夫教授）に参加し、初期イスラーム時代の碑文集中地の調査を行う機会を得たが、その際、巡礼路や交易路として知られる主要ルート外れた地域にも多数のグラフィティが見られることに気づいた。既存研究では道は線的に捉えられるものであったが、上記を考慮すると、7～8 世紀までのアラビアの道を考える際にはその面的な広がりにも着目すべきではないか。このような背景に基づき、グリッドを設定して行う網羅的なグラフィティ分布調査に基づくルート研究を計画した。

２．研究の目的

巡礼路の大規模な整備、ムスリムの学者たちによる旅行記や歴史・地理書の編纂７、８世紀、アラビア半島ヒジャーズ地方の道とその周辺部はどのように機能していたのか。山中に残された初期イスラーム時代のグラフィティ（落書きに類する碑文）は、この問いへの唯一の手掛かりとなる資料である。現在までに数多くのグラフィティが刊行されているが、これらは現存する資料の一握に過ぎず、既知の古道の周辺、あるいはこれまではルートとして認識されていなかった場所にも、今なお多くの碑文が未発見のまま残されている可能性が高い。このことに鑑み、本研究では調査域を比較的狭域に区切り、徹底的な踏査を実施する。これにより、陸上交通路の面的広がりと周辺部の役割を明らかにし、イスラーム時代最初期の道の在り方を探ることが本研究の目的である。

３．研究の方法

サウジアラビア、タブーク州の北部と南部を調査地域とし、さらにその内部にそれぞれ数箇所、狭域の調査区域を設置して、区域内の全てのワーディーにおけるグラフィティの有無を限なく調査することを目指した。調査は以下の手順で行われた。

(1) 初期段階として、広大な調査地域内の碑文分布概要を効率的に把握するため、地元インフォーマントからの聞き取り調査と実地での予備調査を行った。
(2) (1)で得られた情報に基づいて、有効な調査区域（グリッド）を設定した。
(3) 各調査区域に含まれるワーディーの踏査を実施し、発見した初期イスラーム時代のグラフィティについては、写真撮影、計寸、GPS による測位、また状況に応じてスケッチを行った。踏査中に発見されたその他の碑文、ペトログリフ、遺構についても記録を行った。

調査後は、記録したグラフィティのトレース、分布図の作成、碑文テクストの読解、人名研究を行い、イスラーム時代最初期の人々が通った道筋とその広がり、通行の目的について考察した。

４．研究成果

イスラーム時代初期より、二大聖地を擁するアラビア半島ヒジャーズ地方には、巡礼、商業をはじめとする様々な目的で、半島内外より多くの人々が集まった。とりわけシリア、エジプト、イラク、イエメンからの主要路は、サウジアラビアの研究者により注目され、文献史料、グラフィティ（落書きに類する碑文）の双方の観点から数多くの研究が行われてきた。しかしながら、旅行記や地理書の登場前のイスラーム時代最初期（7、8 世紀）のヒジャーズの旅の様子を伝える文献は限られている。また、これまでの古道研究では主要ルート沿いのグラフィティの調査が重点的に行われる傾向にあり、その他のアラビア半島の広大な地域は未調査となっている。

このような状況を踏まえ、本研究は、未調査地域のグラフィティの分布を把握し、新資料の研究を通してイスラーム最初期のヒジャーズ地方の陸上ネットワークの様相を明らかにする手順で行われた。本研究の中核を成すフィールドワークはサウジアラビア北西部タブーク州の南部と北部で実施した。

(1) 調査の概要と成果

①タブーク州南部におけるグラフィティ調査

タブーク州南部でのグラフィティ調査は、早稲田大学の長谷川奏教授を日本側代表とするサウジアラビア・日本合同のハウラー遺跡発掘調査プロジェクトに付随する後背地調査の位置付けで行われた。ハウラー遺跡はウムルジュの北約 10km に位置する初期イスラーム時代の港町で、このプロジェクトは 2017 年度末に開始した。本研究開始以前のハウラー遺跡の初回調査に加え、2019 年度から研究分担者として参加した基盤研究（S）「中東部族社会の起源：アラビア半島先原史遊牧文化の包括的研究」（研究代表者 藤井純夫〔金沢大学〕）、基盤研究（B）「多地域での遺跡探査を可能とする衛星データの応用に関する研究」（研究代表者惠多谷雅弘〔東海大学〕）

の枠組みで行われた調査で発見したグラフィティも本研究に利用することができた。2020、2021年度は新型コロナウィルス感染症対策により調査実施が叶わなかったが、本研究助成による調査は2018年春より2023年春の最終年度調査まで計5期にわたって行われた。2018、2019年度は地元インフォーマントからの聞き取り調査等で選定した地域の調査を実施し、計38遺跡、40点の初期イスラーム時代のアラビア語グラフィティ数を登録した。2023年度の調査はこれまでの調査域の偏りを補正すべく、(a)ウムルジュの東約40kmのガウト地区（約5㎢）、(b)同じく東方約60kmのサフラ近郊のムハビー（約4㎢）、(c)ウムルジュ南部の山地（約200㎢）に調査区域を絞り、四輪駆動車および徒歩での網羅的な踏査を行った。これらの3つの地域はそれぞれ性質が異なり、(a)は山間部の平野と小規模な起伏の激しいワーディを含む地区、(b)は雨水を集めて多くの滝が生じる山の周辺部、(c)はエジプト巡礼路として知られる大規模なワーディー（ワーディー・アルウマイル）と周辺の中・小規模のワーディーである。可能な限り全ワーディーを踏査することを試みたものの、(c)では一部未踏査の場所が残されている。

踏査の結果、(a)では、山間部の複数のワーディーが流れ込む平野に8、9世紀頃のクーファ書体で非常に小さな文字で刻まれた16点のグラフィティの集中が発見された。さらに、ワーディー・アルウサイフィルの河口に稚拙な文字で刻まれた1点の碑文、さらにその奥のこれまでルートとして機能するとは考えられなかった険しい沢の奥から、8世紀頃の整ったクーファ書体で刻まれたグラフィティ1点とラクダの一団を描いたペトログリフが発見された。このワーディーの入口には井戸があり、周囲には先史・古代のものを含む数多くの人物や動物のペトログリフや古代北アラビア文字碑文が見られ、特に古代あるいはイスラーム時代初期のものと推測される多くのラクダ（フタコブラクダも含まれる）が描かれていることも特記すべき発見であった。16点の小さな碑文には欠損部分も多く、判読不能な箇所があるものの、バスマラ（「（慈悲あまねく慈愛深き）アッラーの御名において」という文言）を伴う信仰告白や祈願文が含まれる。人名にはニスバ(名前の最後に付けて部族や出身地などの出自や帰属を表す形容詞)が見られない。(b)では、8世紀頃の同一人物による2点の信仰告白の碑文で、ニスバは刻まれていない。(c)では、ヒジャーズ地方の大動脈とも言える重要な巡礼路の存在、広域な踏査の実施にもかかわらず、古代の碑文は散見されるものの、イスラーム時代の碑文は皆無であった。

②タブーク州北部におけるグラフィティ調査

タブーク州北部の調査は、金沢大学の藤井純夫教授を日本側代表とするサウジアラビア・日本合同のジャウフ・タブーク考古学プロジェクトの枠組みの中で実施した。重点的な調査区域として設定したのは、州都タブークの約75km北西に位置するワーディー・アルヒルカとその周辺（約5㎢）である。このワーディーは、主要な巡礼路や交易路上には位置づけられないものの、初期イスラーム時代のアラビア語グラフィティの大規模な集中が存在する。この遺跡では、本研究に先立って2017年に第一回目の調査を行った。本研究助成による調査は、ワーディー・アルヒルカ地区の全てのグラフィティの分布を確認することを目的として2022年5月に実施した。この調査では、ワーディー・アルヒルカを構成する3本の小ワーディーを上流まで踏査して新たなグラフィティを発見・登録するとともに、地元のインフォーマントにこのワーディーに関する聞き取り調査を行った。

踏査の結果、3本の小ワーディーのうち、グラフィティが存在するのはワーディー・アルマーと呼ばれる小ワーディーのみで、新発見資料を加えると、計113点の初期イスラーム時代のアラビア語碑文がここで確認された。このワーディーの河床には、ハラザと呼ばれる天然の貯水槽がいくつも形成されている。インフォーマントによると、ワーディー・アルマーはこの地域で最も大規模な水量を誇り、地域の人々にとって重要なワーディーであった。ここにはタブーク州南部のガウトと同じく、先史のペトログリフと古代北アラビア文字のグラフィティも見られる。

ワーディー・アルヒルカに加え、その西約70 kmのザイタ地区においても、グラフィティ調査を行った。そこからタブークの西約150 kmのバジュダにかけての南北百数十kmの地域には、古代〜初期イスラーム時代のグラフィティが集中しており、国際的な交通路として利用されていたものと考えられる。ここでは網羅的な調査は行なっていないが、本研究で扱った他の調査地区とは性質が異なるものとして、グラフィティの文面の比較対象とした。

①、②のグラフィティ踏査に加え、比較調査として、2021年度春にはマディーナ州の碑文遺跡やヒジャーズの多くの道の終着点となるマディーナの史跡と博物館の調査を行った。

(2)　考察結果と今後の展望

上記の2地域での調査で得られた資料の考察から、以下の成果がもたらされた。

①人名について見てみると、国際交通路上に位置するザイタ・バジュダ間の多くのグラフィティと、タブーク州南部のマディーナ州境で発見された1点のグラフィティの人名（同一人物の碑文はマディーナ州でも発見されている）にはニスバが記されているのに対し、今回重点的な踏査を行った遺跡で見られる人名にはニスバが見られない。様々な地域からやってきた人々の通行する道では、自分の出自を示すことが重要な意味を持つが、同一部族の地元民しか通行しない道では、ニスバを記す必要性はない。従って、(1)-①に記したタブーク南部の(a)(b)およびタブーク北部のワーディー・アルヒルカは、地域住民のみが利用した場所であったことがわかる。とりわ

け、ワーディー・アルヒルカでは、3 世代にわたる同一家族の構成員たちによるグラフィティが確認されている。

②これまでの研究では主要な交通路として中規模以上のワーディーが注目されてきたが、グラフィティの分布はむしろ小規模のワーディーに確認される傾向があった。起伏が激しく、通行が困難なワーディーにもグラフィティが見られるのは驚くべきことであった。また、地元民のグラフィティが見られる小規模なワーディーのほとんどが良好な水場を有していた。人々は、水場のある小規模なワーディを辿って比較的近距離の移動を行ったり、また、水の供給目的で、ワーディーの水場を訪れたりしていたことが考えられる。従って、今後のルート調査やグラフィティ探索においては、大・中規模のワーディーから枝分かれした小規模のワーディーも視野に入れる必要がある。

③一方、タブーク南部のエジプト巡礼路として知られるワーディー・ウマイイル周辺で初期イスラーム時代のアラビア語グラフィティが見られないのは、(a)イスラーム最初期にはこの道が利用されていなかった、(b)この道を利用した人々の間にグラフィティを刻む習慣がなかった、などの理由が考えられるが、最終的な結論には至っていない。この地域には未調査のワーディーが残されていることから、今後も踏査を継続してゆくつもりである。

④本研究で行った調査では、当初予想しなかった発見もあった。(1)-①-(a)に記したタブーク南部のガウトでは、仔ラクダを含む 6 頭のフタコブラクダが刻まれた岩が発見された。フタコブラクダは中央アジアからアナトリアにかけて生息するが、アラビア半島のラクダは全てヒトコブラクダである。アラビア半島では他にマディーナ州のウラーと、ジュッバでフタコブラクダを確認したが、ガウトでの発見はその生息域に最も遠く、南に位置する。 ガウトのラクダの正確な年代は不明であるが、どのような経緯でここに描かれたのか、さらなる研究を進めたい。

⑤また、もう一つの予期せぬ発見に、ワーディー・アルヒルカのアラビア語碑文のなかの「プロトハムザ」が挙げられる。ハムザとは、アラビア語の声門閉鎖音を表す記号で、それが現在の形で記されるようになるのは 11 世紀のことである。イスラーム最初期のヒジャーズ書体やクーファ書体の段階ではハムザは記されないが、近年プロトハムザと呼ばれる、ハムザのプロトタイプが 12 点の碑文で確認された。ところが、ワーディー・アルヒルカのそれは、語末のハムザの初めての例で、これまでの既存例とは形が異なることから、アラビア語書法の発達史、当時の発音を推定する上で、極めて重要な意味を持つ。

ワーディ・アルヒルカのアラビア語グラフィティについては、人名の系譜による編年構築、正書法、プロトハムザに焦点を絞った複数の論文を国際的に発表し、書き損じや欠損の激しいものを除き、全ての資料の刊行を終えた。これらは、北ヒジャーズの地元民の彼らの当時の発音や綴り方を総合的に考察のできるまとまった数の資料として、アラビア語研究にも寄与できるものと思われる。その他の資料についても、国内外の複数の学会・研究会・学会誌において調査・研究成果発表を行なってきたが、グラフィティ資料については、一部を除いてまだ刊行が済んでいない。今後は本課題による古道研究成果と、新発見資料の刊行を第一の課題として進めてゆく予定である。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計20件（うち査読付論文　7件／うち国際共著　4件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 長谷川奏、徳永里砂、西本真一、惠多谷雅弘、藤井純夫	４．巻 29
２．論文標題 中世の港町の構造を探る―サウジアラビア紅海沿岸ハウラー遺跡の考古学調査(2021)	５．発行年 2022年
３．雑誌名 第29回西アジア発掘調査報告会報告集	６．最初と最後の頁 75，79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Risa Tokunaga	４．巻 51
２．論文標題 New Example of Proto-hamzah in the Early Islamic Graffiti of Wadi al-Khirqah	５．発行年 2022年
３．雑誌名 Proceedings of the Seminar for Arabian Studies	６．最初と最後の頁 403-412
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 So Hasegawa, Risa Tokunaga, Shin-ichi Nishimoto, Abdulaziz Alorini	４．巻 25
２．論文標題 A New Perspective on the Site Plan of al-Hawra, a Medieval port on Saudi Arabia’s Red Sea Coast	５．発行年 2020年
３．雑誌名 The IASA Bulletin	６．最初と最後の頁 17-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

１．著者名 長谷川 奏、徳永 里砂、西本 真一、惠多谷 雅弘、藤井 純夫	４．巻 28
２．論文標題 サウジアラビア紅海沿岸ハウラー遺跡の考古学調査（2020）	５．発行年 2021年
３．雑誌名 第28回西アジア発掘調査報告会報告集	６．最初と最後の頁 26-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 So Hasegawa, Risa Tokunaga, Abdulaziz Alorini, Sumio Fujii	4．巻 26
2．論文標題 Survey of al-Hawra 2020: Uncovering the structure of a medieval port city on the Red Sea coast	5．発行年 2021年
3．雑誌名 The IASA Bulletin	6．最初と最後の頁 101-104
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 長谷川奏、徳永里砂、西本真一、惠多谷雅弘	4．巻 62-2
2．論文標題 サウジアラビア紅海沿岸ハウラー遺跡の立地条件と構造―初期イスラーム時代の港まちの分布調査から	5．発行年 2020年
3．雑誌名 オリエント	6．最初と最後の頁 182-183
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 長谷川奏、徳永里砂、西本真一、惠多谷雅弘、藤井純夫	4．巻 -
2．論文標題 サウジアラビア紅海沿岸ハウラー遺跡の考古学調査(2019)－中世の港町の構造を探る－	5．発行年 2020年
3．雑誌名 第27回西アジア発掘調査報告会報告集	6．最初と最後の頁 96-99
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 R. Tokunaga, S. Fujii & T. Adachi	4．巻 49
2．論文標題 Early Islamic and Ancient North Arabian Graffiti and Petroglyphs in Tabuk Province: Saudi-Japanese al-Jawf/Tabuk Archaeological Project (JTAP), March 2017 Field Season	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Proceedings of the Seminar for Arabian Studies	6．最初と最後の頁 275-282
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 長谷川奏、徳永里砂、惠多谷雅弘	4．巻 -
2．論文標題 サウジアラビア紅海沿岸ハウラー遺跡の考古学調査（2018）―中世の港町とその後背地	5．発行年 2019年
3．雑誌名 第26回西アジア発掘調査報告会報告集	6．最初と最後の頁 85-89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 徳永里砂	4．巻 65-2
2．論文標題 サウジアラビア北西部ワーディー・アル＝ヒルカの初期イスラーム時代のアラビア語グラフィティ註解	5．発行年 2022年
3．雑誌名 オリエント	6．最初と最後の頁 141-160
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計31件（うち招待講演　2件／うち国際学会　14件）

1．発表者名 徳永里砂、上杉彰紀
2．発表標題 ハウラー遺跡後背地における先史時代・遊牧民遺跡
3．学会等名 科学研究費補助金基盤研究（S）「中東部族社会の起源：アラビア半島先原史遊牧文化の包括的研究」（研究代表者：金沢大学古代文明・文化資源学研究センター・特任教授　藤井純夫）
4．発表年 2021年

1．発表者名 徳永里砂
2．発表標題 初期イスラーム時代の碑文に見られる「プロト・ハムザ」について―サウジアラビア北西部ワーディー・アルヒルカの新資料の考察を中心に
3．学会等名 日本オリエント学会第 63 回年次大会
4．発表年 2021年

１．発表者名 徳永里砂
２．発表標題 アラビア半島におけるヒトコブラクダの利用―ペトログリフの考察から
３．学会等名 科研合同研究会「西アジアと中央アジアの牧畜」 、科研費基盤研究（S）「中東部族社会の起源」・科研費基盤研究（A）「中央アジアにおける牧畜社会の動態分析」
４．発表年 2022年

１．発表者名 徳永里砂
２．発表標題 2021年タブーク州北部グラフィティ調査の報告
３．学会等名 研費基盤研究（S）「中東部族社会の起源：アラビア半島先原史遊牧文化の包括的研究」（研究代表者：藤井純夫）第4回全体研究会
４．発表年 2022年

１．発表者名 長谷川奏、徳永里砂、西本真一、惠多谷雅弘、藤井純夫、アブドゥルアズィーズ・アルオライニー
２．発表標題 中世の港町の構造を探る―サウジアラビア紅海沿岸ハウラー遺跡の考古学調査(2021)
３．学会等名 第29回西アジア発掘調査報告会
４．発表年 2022年

１．発表者名 徳永里砂、惠多谷雅弘、佐藤康党、長谷川奏、藤井純夫
２．発表標題 サウジアラビア・ハウラー遺跡後背地のグラフィティ調査
３．学会等名 2019－2021年度 東海大学情報技術センター 研究・開発報告会
４．発表年 2022年

１．発表者名 Risa Tokunaga
２．発表標題 New Examples of Proto-Hamzah in the Early Islamic Graffiti of Wadi al-Khirqah
３．学会等名 54th Seminar for Arabian Studies（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Hasegawa, S., R. Tokunaga, S. Nishimoto, M. Etaya, S. Fujii, and A. Alorini
２．発表標題 A Medieval Red Sea Port and Its Hinterland: Surveys and Excavations by the Saudi-Japanese Mission at al-Hawra in 2019 and 2020
３．学会等名 54th Seminar for Arabian Studies（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Risa Tokunaga
２．発表標題 al-nuqush al-arabiyyah al-islamiyyah fi wadi al-khirqah bi al-mamlakat al-arabiyyah al-suudiyyah (Islamic Arabic Inscriptions in Wadi al-Khirqah, Kingdom of Saudi Arabia)
３．学会等名 Lecture at Sharjah Archaeology Authority（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Risa Tokunaga
２．発表標題 Nuqush wadi al-khirqah wa hamzah bi al-tiraz al-bidaii (Inscriptions of Wadi al-Khirqah and Proto-Hamzah)
３．学会等名 Nadwat al-khatt al-arabi (Seminar on Arabic Calligraphy), International Council of Museums (ICOM), Dubai（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Hasegawa, S. and R. Tokunaga
２．発表標題 Medieval Red Sea Port of al-Hawra and Its Hinterland
３．学会等名 Archaeology Discovery Forum, Heritage Commission (Saudi Arabia)（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 徳永里砂
２．発表標題 2020年ハウラー遺跡後背地グラフィティ調査の概要
３．学会等名 科学研究費助成事業（科学研究費補助金（基盤研究（S））「中東部族社会の起源：アラビア半島先原史遊牧文化の包括的研究」（研究代表者：藤井純夫・金沢大学歴史文化学系教授）第3回全体研究会
４．発表年 2021年

１．発表者名 長谷川奏、徳永里砂、西本真一、惠多谷雅弘、藤井純夫
２．発表標題 サウジアラビア紅海沿岸ハウラー遺跡の考古学調査（2020）
３．学会等名 第28回西アジア発掘調査報告会
４．発表年 2021年

１．発表者名 So Hasegawa, Risa Tokunaga, Shin-ichi Nishimoto, Masahiro Etaya, Sumio Fujii, Abdulaziz Alorini
２．発表標題 A Medieval Red Sea Port and Its Hinterland: Surveys and Excavations by the Saudi-Japanese Mission at al-Hawra in 2019 and 2020
３．学会等名 54th Seminar for Arabian Studies（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 S. Hasegawa, R. Tokunaga, S. Nishimoto & Abdulaziz Alorini
２．発表標題 A New Perspective on the Site Plan of al-Hawra’, a Medieval Port on the Red Sea Coast of Saudi Arabia
３．学会等名 The 53rd Meeting of the Seminar for Arabian Studies（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Risa Tokunaga
２．発表標題 Development of Formulae of Early Islamic Arabic Rock Graffiti in Light of Recent Discoveries in al-Hijaz
３．学会等名 Inscriptions of the Islamic World（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 徳永里砂
２．発表標題 初期イスラーム時代ヒジャーズ地方のグラフィティにみられる文面の変遷
３．学会等名 日本オリエント学会第61回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 徳永里砂
２．発表標題 ヒジャーズ地方のグラフィティとペトログリフ
３．学会等名 基盤S第1回研究会「中東部族社会の起源：アラビア半島先原史遊牧文化の包括的研究」
４．発表年 2019年

１．発表者名 R. Tokunaga, S. Fujii & T. Adachi
２．発表標題 Early Islamic and Ancient North Arabian Graffiti and Petroglyphs in Tabuk Province: Saudi-Japanese al-Jawf/Tabuk Archaeological Project (JTAP), March 2017 Field Season
３．学会等名 Seminar for Arabian Studies（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 S. Hasegawa & R. Tokunaga
２．発表標題 Nata'ij a'mal al-mash wa al-tanqib al-athari bi al-mauqi‘ al-Hawra’ li al-ba‘tha al-su‘udiyyah al-yabaniyyah
３．学会等名 Muhadarah yuqim qita‘ al-athar wa al-matahif bi al-hayyah al-‘ammah li al-siyahah wa al-trath al-watani bi al-ta'aun ma' kulliyah al-siyahah wa al-athar bi jami'ah al-malik su'ud（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 長谷川奏、徳永里砂、惠多谷雅弘
２．発表標題 サウジアラビア紅海沿岸ハウラー遺跡の考古学調査（2018）―中世の港町とその後背地
３．学会等名 第26回西アジア発掘調査報告会
４．発表年 2019年

１．発表者名 長谷川奏、徳永里砂
２．発表標題 サウジアラビア紅海沿岸の港湾遺跡：海を渡ったヒトとモノ
３．学会等名 日本西アジア考古学会第23回総会・大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Risa Tokunaga, Ajab al-Otibi
２．発表標題 al-Turath al-sakhriyyah fi shamal gharb al-mamlakat al-`arabiyyah al-su`udiyyah
３．学会等名 Fa`aliyat shahr al-turath, Qita`at al-turath al-thaqafi wa al-matahif, Itihad al-mubdi`in al-`arab（国際学会）
４．発表年 2023年

〔図書〕　計3件

１．著者名 S. Nakamura, T. Adachi & M. Abe (eds), R. Tokunaga et al (30+).	４．発行年 2018年
２．出版社 Rokuichi Syobou	５．総ページ数 363
３．書名 Decades in Deserts: Essays on Near Eastern archaeology in honour of Sumio Fujii	

１．著者名 S. Hasegawa & R. Tokunaga	４．発行年 2018年
２．出版社 Saudi-Japanese Archaeological Mission at al-Hawra’ Research Office	５．総ページ数 34
３．書名 Archaeological Research at al-Hawra’: Medieval Port Site on the Red Sea Coast of Saudi Arabia 1	

１．著者名 B. O’Kane, A. C. S. Peacock and M. Muehlhaeusler (eds.), R. Tokunaga et al (20+).	４．発行年 2023年
２．出版社 Edinburgh University Press	５．総ページ数 752
３．書名 Inscriptions of the Medieval Islamic World	

〔産業財産権〕

〔その他〕

中東部族社会の起源：アラビア半島先原史遊牧文化の包括的研究 http://crs.w3.kanazawa-u.ac.jp/project/fujiisumio/Member_Tokunaga.html

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関